

7月14 - 18日週の豪ドル円レビュー

July 22, 2008

信用不安後退で買い優勢

High : 103.87 円 Low : 101.49 円
Close : 103.75 円 (前週比 +1.06 円)

今週の豪ドルは堅調。15日のRBA議事録や16日のスティーブンス総裁の講演など重要イベントは総じて豪ドル売りを誘う内容に。しかし週後半の米金融機関決算が軒並み市場予想を上回ったことで信用不安が後退。これがクロス円買いを誘い、週前半の下落分を取り戻した。18日には103.87円まで上昇して、昨年11月以来の104円を窺う展開となった。

7/14 (月) 103.14 円 (前日比 +0.45 円)
小幅高。材料に乏しい中、83年以来の高値を窺う動きとなった豪ドル/ドルに連れ高となった。

7/15 (火) 102.54 円 (前日比 0.60 円)
反落。金融不安の拡大からドル円が大幅下落となると、これに連れて102.40円まで急落。ドル安が進行したことから対ドルでは0.9850ドル付近まで上昇するも、ドル円の下落分は相殺しきれなかった。なお、金融政策決定理事会議事録に対する反応は限定的だった。

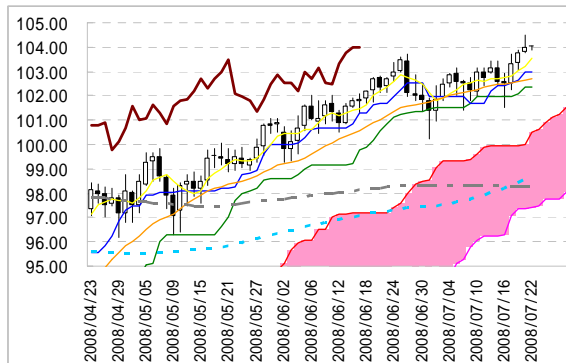
7/16 (水) 102.49 円 (前日比 0.05 円)
行ってこい。スティーブンス RBA 総裁の発言を嫌気し、東京時間は売り優勢。一時101.49円まで下落したが、ウェルズ・ファーストの決算を受けてダウ平均が上昇するとクロス円も連れ高に。結局、東京時間の下落幅をほぼ取り戻す動きとなった。

7/17 (木) 103.32 円 (前日比 +0.83 円)
反発。前日からの地合いを引き継ぎ、東京時間から買い優勢。JP モルガンの決算が市場予想を上回ったことから、NY 時間もクロス円買いが継続となった。豪ドル円も一時103.69円まで反発した。

7/18 (金) 103.75 円 (前日比 +0.43 円)
小幅続伸。東京時間に103円ちょうど付近での底堅さを確認したこともあり、総じて堅調な展開に。また、海外時間に発表されたシティの決算も予想を上回ったことから信用不安が後退。一時103.87円まで上値を伸ばし、104円の台に迫る動きとなった。

月日	High	Low
7/14 (月)	103.45 円	102.90 円
7/15 (火)	103.43 円	102.40 円
7/16 (水)	102.92 円	101.49 円
7/17 (木)	103.69 円	102.24 円
7/18 (金)	103.87 円	103.01 円

豪ドル円の推移



テクニカル短期・中期ポイント

- 107.85 (07年10月31日高値)
- 104.49 (7月21日高値)
- = = 先週末のNYクローズ 103.75 円 = =
- 102.99 (日足一目均衡表・転換線)
- 102.37 (日足一目均衡表・基準線)
- 101.40 (7月8日安値)
- 100.25 (7月1日安値)
- 98.70 (200日移動平均線)
- 98.25 (90日移動平均線)

豪州の重要指標結果

- 7/15 (火) [結果] (前回)
RBA 金融政策決定理事会議事録
現在の金利がインフレを抑制するのに十分な水準であることを示唆
- 7/16 (水) [結果] (前回)
スティーブンス RBA 総裁、講演
内需が著しく鈍化する可能性が高いことを示唆
- 7/18 (金) [結果] (前回)
2Q 輸入物価指数(前期比) [+1.4%] (+2.7%)

アウトルック ダイジェスト版

レンジ : 100.50 - 105.00 円
注目は23日に公表される第2四半期消費者物価指数。RBAは「次の四半期CPIはさらに上昇する」との見方を示しており、第1四半期の前年比+4.2%を大幅に上回らない限りはRBAの方針が再びタカ派へと傾く公算は低そう。一方で、前述の総裁講演などを受けて金利市場は今後12ヶ月以内の下下げを60%ほど織り込んでいるだけに、強い数字となった場合の反応は大きくなりそうだ。